

108. ちくごがわすいうん 筑後川水運

選定箇所：若津港（福岡県大川市）～筑後川河口（大川市・佐賀県佐賀市）

概要：筑後川は九州北部を東から西へ流れ有明海に注ぐ九州最大の河川である。筑前・筑後・肥前・豊後国の境界であり、水運が古くから発達し、農業用水としても利用された。有明海は干満差が大きいとため、河口に濁土が堆積しやすく、船舶の輸送を妨げる事が多かった。明治政府が招いたオランダ人技師ヨハニス・デ・レイケは、明治16～17年にかけて筑後川河口域を視察し、若津港一帯に導流堤を計画した。明治23年、導流堤は完成し、川の流れを速め、堆積する土砂を遠浅の河口に押し流すことで、航路を維持することに成功した。導流堤は現在もその役割を果たしており、引き潮の時だけその姿をみることができる。



写真提供：大川市